

製品名: AKT1 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM81658**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ICC,ELISA,FC
反応性	人間、マウス、サル、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	55.7kDa

抗原情報

遺伝子名	AKT1
別名	AKT; PKB; RAC; CWS6; PRKBA; PKB-ALPHA; RAC-ALPHA
遺伝子 ID	207.0
SwissProt ID	P31749
免疫原	大腸菌で発現したヒト AKT1 (AA: 1-150) の精製された組み換え断片。

背景

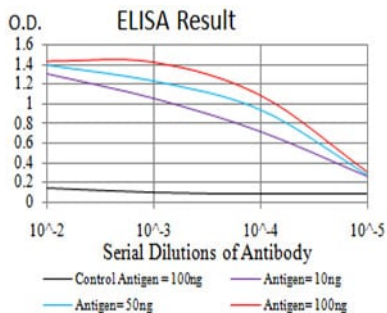
AKT1 遺伝子によってコードされるセリン-スレオニンタンパク質キナーゼは、血清飢餓状態の初代培養線維芽細胞および不死化線維芽細胞において触媒活性を示さない。AKT1 および関連遺伝子である AKT2 は、血小板由来増殖因子によって活性化される。この活性

化は迅速かつ特異的であり、AKT1のプレクストリン相同ドメインの変異によって阻害される。この活性化はホスファチジルイノシトール3-キナーゼを介して起こることが示されている。発達中の神経系において、AKTは増殖因子誘導性のニューロン生存の重要なメディエーターである。生存因子は、セリン/スレオニンキナーゼAKT1を活性化することで転写非依存的にアポトーシスを抑制し、AKT1はアポトーシス機構の構成要素をリン酸化して不活性化する。この遺伝子の変異は、プロテウス症候群と関連している。この遺伝子には、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっている。

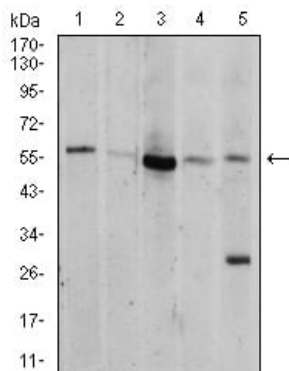
研究分野

アポトーシス、TGF- β シグナル伝達経路、PI3K-Aktシグナル伝達経路、mTORシグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路、Jak-STATシグナル伝達経路

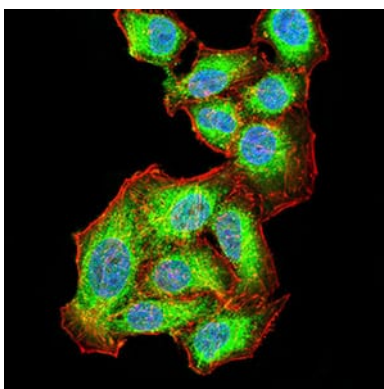
画像データ



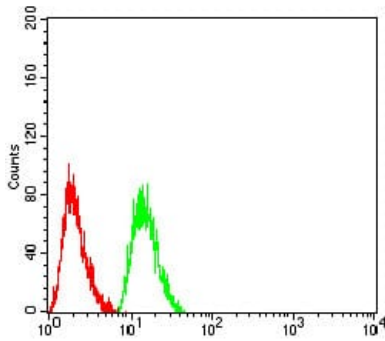
黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



MCF-7 (1)、NIH/3T3 (2)、Hela (3)、COS7 (4)、および C6 (5) 細胞溶解物に対する AKT1 マウス mAb を使用したウエスタンブロット分析。



AKT1 マウス mAb (緑) を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



AKT1 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Hela 細胞のフローサイトメトリー分析。